

令和3年度 学校関係者評価結果報告書

学校名	成田市立豊住小学校
-----	-----------

1 学校教育目標

ふるさとを愛し 共に未来を拓く 児童の育成

学校関係者評価委員
鳴田 敏江 鈴木 公子 日暮 義之 織笠 勇次 武藤 幸雄

2 本年度の重点化された具体的な目標

- ・小規模特認校の円滑なスタート
- ・複式学級・複式児童の充実
- ・一人一人のよさをいかした全職員での学校運営
- ・課題を共有し共通理解・共通行動
- ・記録を残して業務改善

3 自己評価結果に対する学校関係者の評価・意見等

分野・領域	評価項目	評価の指標	取組状況	改善の方策	学校関係者評価	
					自己評価の適切さ	改善に向けた取組の適切さ
家庭・地域との連携	学校は、教育方針を適切に伝えている。	96.3%の保護者が肯定的な回答をしている。	A	PTA総会や行事、学校日より、ホームページ等、学校の様子を伝えると共に、教育方針の下、教育活動が進められていることを伝える。	A	A
	授業や行事等を参観する機会や、保護者会・個人面談等、家庭と話し合う機会を十分設けている。	92.6%の保護者が肯定的な回答をしている。	A			
学校関係者による意見等	小規模特認校として、「みんなで考えみんなでつくる豊住小～豊住だからできること～」をスローガンに取り組まれてきたが、地元の方々、学区外から転入学してくる方々共に、子どもたちにとって学校が楽しいと感じてもらえる学校づくりに力を注いでほしい。さらに、活動が充実することで、地域の環境も整ってくることを望む。					
学習指導	学校は、基礎学力向上のための取組を行っている。	96.3%の保護者が肯定的な回答をしている。	A	学校全体で統一しての取り組み(家庭学習ファイル、確認テスト)と発達段階に応じた課題を出し、基礎学力の定着を図れるようにする。家庭学習について児童の評価は87.7%で、定着率が上がっているため、具体的な指導を続ける。	A	A
	学校は、家庭学習が習慣化するための取組を行っている。	96.3%の保護者が肯定的な回答をしている。	A			
学校関係者による意見等	子ども一人一人に応じたきめ細やか指導が行われていた。子ども達の意志を尊重して指導・支援が行われており、主体的に取り組む姿が多く見られた。一人一台のタブレット端末を活用した授業にも取り組んでいた。少人数だからできる工夫もあるが、異学年交流やオンライン学習を進め、学び合いう場を更に工夫してほしい。子ども達が安心して学べる環境づくりを続けてほしい。					
生徒指導	学校は、子どもがきまりや約束を守って生活できるように計画的・継続的に指導を行っている。	96.2%の保護者が肯定的な回答をしている。	A	生徒指導委員会の実施の中で、児童の実態や対応について共通理解と共通行動をする。道徳科の授業の改善と特別活動の充実を図る。問題を解決していく中で、心の成長を耕す。	A	B
	学校は、いじめや暴力のない学校づくりに取り組んでいる。	88.9%の保護者が肯定的な回答をしている。	B			
学校関係者による意見等	校内環境が整っており、子ども達の学習の歩みや活動の様子が掲示されていて、取り組みの足跡がわかる。一人一人を受け止めて子ども達に寄り添った対応をしていることもわかり、保護者の方にも伝わっていると感じる。一人ではできないことも先生や子ども達でやれば「できる」体験を工夫し、よりよい人間関係づくりをし、豊かな心の育成をしてほしい。					

4 次期の重点目標と改善のための方策

- 地域とともにある学校づくりの推進

小規模特認校として2年目に入り、学区外から転入学する児童も増えていることから、学校教育方針を伝える場を定期的に設けたり、学校・家庭・地域が連携して教育活動を進めていける組織づくりと具体的な活用を充実していく。コミュニティスクールの仕組みを基盤として、地域の物的・人的資源を有効活用し、教育力の向上を図る。
- 小規模校の利点を生かした教育活動

少人数のよさを生かした授業形態や複式的な学習を意図的に取り入れて、指導体制を充実させる。また、発達段階に応じたキャリア教育を進める。
- 交流学習の推進

複式的な学習の中で、児童と教師、児童と児童、教師と教師の関係を深め、児童理解と共通指導を進めることで、児童の学びの力を育成する。異学年交流やオンライン学習を活用して、児童が主体的に学び、考えを深める場をつくる。一人一人の特性に応じた指導を行い、連続性のある多様な学びの場と支援を充実する。